

じょうこうじ

# 掟光寺だより

令和4年  
8月号

## 行事案内

●8月8日(月)  
「盂蘭盆会・施餓鬼会」

13時30分から

●8月13日(土)

「寺墓参り」

●8月14日(日)

●8月15日(月)

「お盆棚経」



## お盆とは？

「お盆」は言わずと知れた「亡くなられた方があの世からこの世に帰ってくるので、故人を迎え入れ、もてなし、そして送り届ける」という行事です。亡くなった両親、ひいては自分のご先祖さま、自分と有縁の霊位、さらには祀り手のいない亡者までに施し供養するの、亡者が喜ぶので別名「歡喜会」とも言ったりします。

よくお寺さんで、お盆はお釈迦さまの目連尊者がお母さんを餓鬼道からお救いしたという話、

「仏説盂蘭盆経」が起源だとよく言われますが、実は仏教伝来の以前から「お盆」のような風習はあったみたいです。

古来日本では、「地獄の釜の蓋もあく」ということわざがあるように、正月とお盆の時は「あの世」とこの世が近くなる時期だと考えていました。

日本では古い時代から1月と7月には亡くなった先祖の霊を祀る行事が行われていました。そこに、7月の方は仏教の伝来とともに「盂蘭盆会」と発展し、さらには地方それぞれの「魂まつり」の風習を取り入れられたり、また、中国の「中元節」による教えも加わりました。



これらさまざまな風習や文化が一体となって、最終的に一年のはじめの1月は先祖の霊を祀る「神事の月」となり、一年の後半のはじめの7月は先祖の霊を祀る「仏事の月」というような風習になりました。

## 7月盆と8月盆？

地域によって7月盆と8月盆があると思います。日本のほとんどは8月13日～16日がお盆である所が多いですが、東京などの都市部では7月日13～16日がお盆のところもありますし、沖縄などは8月20日～22日がお盆とこちらもあり、大きく分けて現在【3種類】のお盆が日本に存在しています。

これは明治時代に「暦が変わったこと」が原因です。変更の理由は様々ありますが、要は御上の都合で元々「太陰太陽暦(天保暦・旧暦)」だったのが西洋の「太陽暦(グレゴリオ暦・新暦)」に変更されたことで、約1か月のズレが生じ、旧暦の7月15日前後が新暦の8月15日前後に変わったわけです。

しかし、この新暦に変更の決定からわずか1か月ばかりで新暦に

施行されたため、様々な混乱が起こりました。

東京や地方の都市部、明治政府のお膝元では、新暦の施行を徹底させようとする政府の意向により、新暦7月盆(7月13日～16日)となりました。

その他の地域、都市部以外の農村部では、ちょうど米や畑の仕事がまだまだ忙しい時でもあるので、昔からの慣例を変えることがありませんでした。そのため、旧暦の7月盆(新暦の8月盆)8月13日～16日)になりました。福井の武生でも掟光寺がある農村部は8月盆ですが、武生市内などでは7月盆です。

ちなみにもう一つの沖縄などの地域で行われているのは本当の「旧暦盆」です。家族や祖先を大切に作る沖縄では、旧暦盆は一年で一番大事な時期なので、そのまま旧暦盆(8月20日～22日)で残りました。ところによっては9月になるところもあるそうです。

元々は旧暦盆一つだけだったのが、こうした歴史の流れのなかで変化して、今に続いているのです。



